

金属製品

漆器や家具の止め金、雛具に代表される飾り金具の製造から発展し、産地化された静岡の金属製品業界は、昭和 21 年（1946）「静岡県金物工業協同組合」を発足させ、戦後の立て直しを図りました。昭和 22 年に大村林太郎が、軍需品の残りの鉄くずを使って、時計用のスプリングバンドを製造、米軍向けに輸出しました。

戦災地の復興による金具需要の拡大、朝鮮戦争の特需などが続き業界にとって生産復興の機会がやってきました。

昭和 28 年（1953）、小野甚平を会長に「静岡金属工業会」が設立され、金属着色法など各種技術の講習会を実施、昭和 32 年の静岡国体に際して、金属製品の展示会を開催するなど業界振興のための努力が進められました。

昭和 35 年（1960）、中小企業集団化計画により、機械金属団地の建設が決定、昭和 36 年 6 月 5 日機械金属工業団地協同組合が結成されました。

日本で最初の工業団地として中小企業庁より指定を受けた全国 10 団地のひとつとして設立されたものです。

静岡市内において機械金属塗装鑄造業を行う中小企業者が協同組合の立案した集団化計画に基づき、土地造成、道路・上下水道等の工場環境を整備し、共同事業を通じ生産性向上のため教育訓練、技術訓練、従業員の保健体育福祉の向上につとめ、組合員に事業資金の貸付等金融の円滑を図り、設備と経営の近代化を推進し製品の品質、精度向上の確立を図り、地方経済並びに地域社会と協調して地域に貢献しつつ組合員が集団化理念のもとに親睦融和共存同業長期発展を図る と集団化の目的が 20 周年記念誌に掲げられています。

こうして現在の駿河区丸子に、約 4 万坪の工業団地が建設されました。

飾り職、鍛冶屋、鑄物師から発達した静岡の金属製品業界は、木工品生産の増大とともに発展し、加工技術の機械化は著しく、手加工による製造は、ごく少数の伝統継承者のみになりました。

生産される製品も家具金物などの木工関連から、自動車部品、金型など様々に変化しています。瞬時に製品製造のコストが変わる金属業の中で、七夕豪雨の大水害や、多くの不況を乗り越えてきた力で、日々振興の努力をつづけています。

資料 7